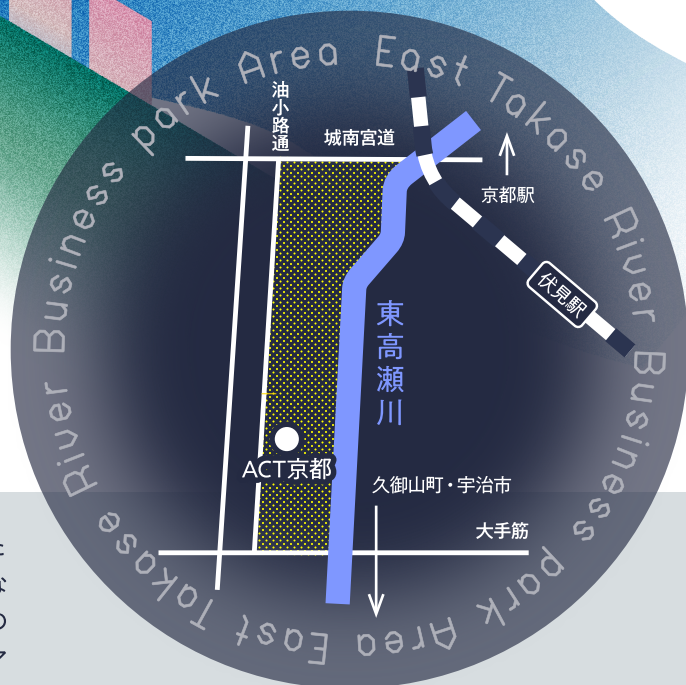


東高瀬川から 世界へ

グローバルに活躍する
産学官連携コミュニティを目指して

「東高瀬川ビジネスパーク構想」

East Takase River
Business park concept



新しい京都を発信するものづくり拠点として、企業集積やまちづくりを進めてきた「らくなん進都」。北は十条通りから南は宇治川まで600ヘクタールを超える広大な市街地の中心に位置するのが、東高瀬川エリアです。2023年3月、サムコ株式会社の呼びかけにより、「東高瀬川ビジネスパーク構想」が産声をあげました。このエリアで活躍する企業同士の連携を広げながら、構想の実現に向けて活動しています。

2024年3月、構想を実現させるために東高瀬川ビジネスコミュニティを発足。コミュニティに所属する企業や施設をご紹介します。



株式会社Kamogawa

「そんなとこ」まで考える。
生産財総合卸事業・PB事業・リノベート事業。



サムコ株式会社

1979年創業の半導体等電子部品製造装置メーカー。プライム上場(6387)



株式会社
増田医科器械

医療の最前線からご家庭まで安全・安心を支える。



株式会社
プラズマイオンアシスト

部品に高機能化を付与できるダイヤモンド状薄膜コーティングサービス。



京都市成長産業
創造センター
(ACT京都)

新産業創成・育成のための“インキュベーション型研究センター”。



イーセップ株式会社

ナノセラミック分離膜技術の開発およびその関連機器・システム等の提供。



株式会社
クロスエフェクト

最先端3Dデジタル技術を活用した開発試作品製作、臓器シミュレーター開発。



英興株式会社

無機材料のノウハウを生かし、お客様のアイデアを形にしていきます。



生田産機工業
株式会社

銅と銅合金をはじめとする金属生産設備の設計・製造。



京都から挑む グローバルビジネスの展望

45年前に伏見の大手筋近くのカレーで起業し、1985年に今の地区に移りました。春になると、この一帯は景観が美しいですね。東高瀬川を南に下っていくと、菜の花で土手が黄色く染まり、右側にたくさんの会社が立ち並びます。少し行くと伏見の酒蔵が見えてきます。この美しい景色をただ眺めているようではいかん、ここでしっかりとビジネスをやっていこう、という強い思いを持って、経営をしてみました。

会社が上場し、より社会貢献を意識するようになり、皆でこの地域を盛り立てて、世界に冠たる企業に成長していくような動きができないものかと考えるようになりました。交通基盤が整い、ものづくり企業が集まる東高瀬川エリアは、京都の北側とは違うかたちのまちづくりができる場所だと思います。製造業に限らず、ライフサイエンスやバイオ、サービス業も含め、さまざまな業種の会社が東高瀬川ビジネスパークに拠点を置き、グローバルに展開していく。そんなコミュニティを目指しています。

京都には、経営哲学を持って社会貢献・SDGsを実践し、グローバルに活躍する企業がたくさんあります。産学連携により創造的なビジネスが生まれていることも、京都の特徴と言えるでしょう。この構想に「東高瀬川」の名前をつけたのは、世界に通じているからです。かつては物資を輸送する舟が頻繁に行き交い、今でも東高瀬川の水はやがて大阪湾に流れ込み、海流に乗って世界中を巡ります。地域の中だけで完結しては、やはりおもしろくない。世界を見て企業活動をしていきましょう。

この4月から、中小企業と大企業の間「中堅企業」という企業区分ができます。独自の技術を持つ中堅企業が、今後の日本を支えていくでしょう。現在、この地域の経済規模はおよそ4000億円。ここから、一兆円規模の産業集積を成す東高瀬川ビジネスパークを目指して、皆さんと挑戦していければと思います。



2024年3月18日に実施したキックオフ・シンポジウムの様子

OSAMU TSUJI

辻 氏

サムコ株式会社
代表取締役会長

京都府出身。大学卒業後、米国NASA Ames 研究所研究員等を
経て一九七九年(株)サムコインターナショナル研究所(現サムコ(株))設立。
二〇一八年に代表取締役会長に就任。ベンチャー精神や国際的な人材
育成等のテーマでの講演多数。



Comment

ACT京都(京都市成長産業創造センター)の主たる活動目的は、大学などが有する技術をもとに創業したスタートアップ企業の支援です。入居企業の技術を事業に育てるために、中堅企業や大企業への橋渡しをするなど、新しい産業の創造をひとつ屋根の下で行っています。ACT京都がある東高瀬川エリアは、グローバル展開を進めている中堅企業や中小企業が集積する地域です。新たにネットワークを構築し、地域コミュニティの交流を持続して行っていくことが肝要です。地域のコア施設の役割を担い、今後も京都市との協業により産業支援・まちづくりに取り組んでまいります。産学官の交流の拠点として、ご活用いただければと思います。

京都市成長産業創造センター
センター長 平尾 一之 氏



らくなん進都の可能性と 東高瀬川ビジネスパークの展望

創業100年を超える老舗企業、最先端の技術を追うベンチャー企業、そして市役所に長年勤めた大学研究フェロー、東高瀬川エリアに縁の深い3名に、それぞれの視点からこの地域の可能性を語っていただきました。

2024年3月18日に実施したキックオフ・シンポジウムの様子

写真は左から白須正氏、竹田正俊氏、生田泰宏氏

京都のものづくりを 伸ばすには、 東高瀬川エリアの 発展が不可欠

龍谷大学研究フェロー
白須正氏

実は、京都は昔から、ものづくり都市としての力が強いんです。伝統産業、観光産業、そして近代産業の3軸があり、ベンチャービジネスも盛んなのですが、工業出荷額のピーク時からの減少が他都市よりも激しいことには危機感を持っています。今後、産業振興の中心的な役割を担うのは、間違いなく東高瀬川エリアを含む「らくなん進都」でしょう。かつて京都市役所で働いていた時は、伏見までは少し距離を感じていましたが、龍谷大学で仕事を始めてからは非常に近く感じるようになりました。交通の便が良く、京都・大阪・奈良にまたがるけいはんな学研都市にもアクセスしやすい、らくなん進都。京都市内で唯一残されている、産業集積に適した地域だと言えます。自治体が入力するのはもちろん、民間企業も自主的な取組をしていくことが重要です。

最先端の技術を活用し、 製品開発を 速く・低コストに

株式会社クロスエフェクト
代表取締役 竹田正俊氏

2000年の創業以来、「速さ」をコンセプトに、AIなど最先端のデジタル技術を活用して、製品開発の支援をしてきました。パッチャルを多用してものづくりをデジタル化することで、お客様の開発スピードを上げ、コストを圧倒的に下げることができるのです。最近では、国立循環器病研究センターと連携し、実物大の3D心臓モデルを製作しています。モデルを使った手術前のシミュレーションが可能になり、先天性心疾患の乳幼児の手術において、安全性を高めることができます。また、2001年に立ち上がった一般社団法人京都試作ネットでは、3代目の代表理事を務めました。世界の生産工場は中国・東南アジアに集まっていますが、伏見には、世界的な技術開発の拠点になれる可能性があると思います。今後も最先端を意識して、グローバルに事業を展開してまいります。

人材の国際化を進め、 世界の市場に チャレンジしていく

生田産機工業株式会社
代表取締役 生田泰宏氏

当社は伏見で創業し、以来100年余り金属生産設備の設計・製造を行っています。主なお客様は、金属を扱う大手素材メーカーです。6ミクロンの薄さの銅合金を通板して、油を除去する洗浄技術などを提供しています。現在、中国、インドネシア、インド、ブラジル、ミャンマーなど、多国籍の社員が高度人材のエンジニアとして活躍してくれています。また、中国の蘇州市とトルコのイスタンブールに拠点を構え、海外市場での新展開に挑戦しています。これからは、人材の国際化がますます重要になるでしょう。インドには特に注目しています。宗教も習慣も異なる人たちと仕事をするのは、日本の若者にとっても大きな刺激になり、固定的な価値観にとらわれないビジネス展開を可能にしてくれます。東高瀬川に多様な人材が集まり、一緒にコミュニティを創り上げていけたらと思います。

East Tokose River

East Tokose River

